

(7) 近畿



近畿地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

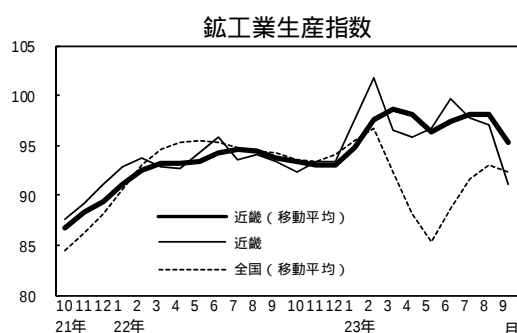
前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年8月)	今回(平成23年11月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	弱含み	↓
鉱工業生産	緩やかに持ち直し	弱含み	↓
個人消費	緩やかに持ち直し	おおむね横ばい	↓
住宅建設	減少	増加	↑
雇用情勢	厳しい状況にあり、やや弱含み	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は弱含んでいる。

一般機械はボイラ・原動機の出荷予定延期や外需の低下に伴い半導体・フラットパネル製造装置が落ち込んだことから減少している。化学は7月に一部で新製品を発売するために増産した反動減が8、9月にあったことや、出荷が期待通りには伸びなかったことから減少している。食料品・たばこは生産調整により全体的に減少している。電気機械は8月まで、猛暑の影響によりセパレート形エアコンが好調であったことから増加している。鉄鋼は円高の影響等により減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
一般機械	17.0	7.9	▲3.7	▲3.1	7.8
化学	14.5	▲1.2	▲1.1	0.0	5.6
食料品・たばこ	9.1	4.0	▲5.3	▲7.1	▲18.7
電気機械	8.5	▲2.5	1.2	▲2.2	18.3
鉄鋼	7.5	▲6.5	▲2.6	▲3.6	4.0
鉱工業	100.0	▲1.2	▲2.2	▲0.4	1.0

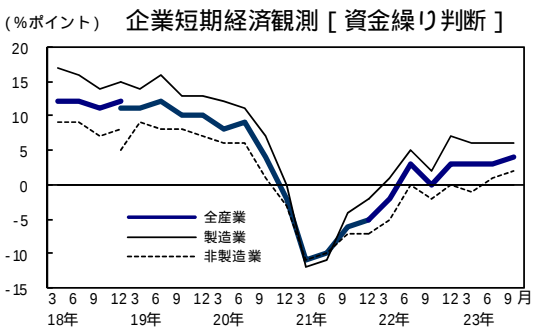
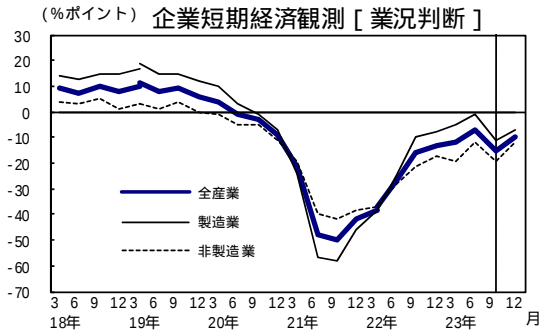
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

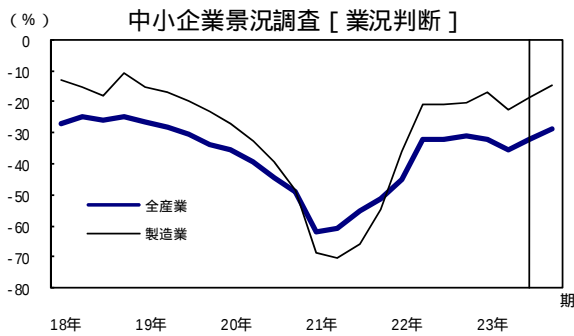
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月)[企業動向関連 (現状)]

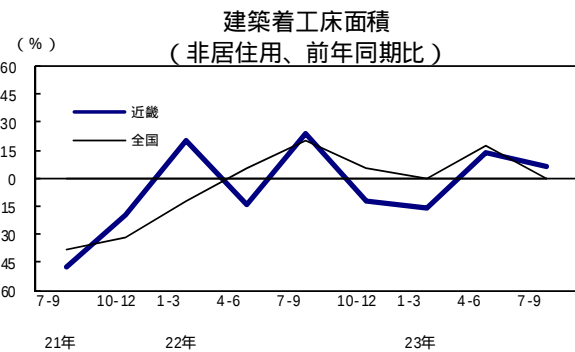
「輸出関係の取引先から、円高に伴う価格の見直しを厳しく求められている(食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	3.2	▲1.0(▲1.3)
製造業	5.7	▲0.6(▲2.9)
非製造業	1.3	▲1.2(0.0)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

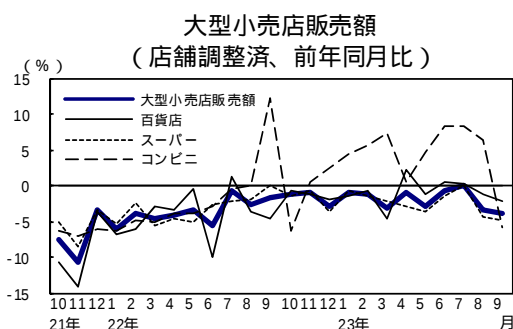
大型小売店販売額は、前年同期比で2.2%減、前期比で0.7%減となった。

百貨店は、7月は、一部店舗の増床・リニューアル効果や中旬までの猛暑、節電意識の高まりもあり、クールビズ関連商品を中心に売上が伸び、前年並みとなった。8月は、売上が牽引していたクールビズ衣料などの暑さ対策商品が需要の先食いもあり低調で、前年を下回った。9月は、台風の影響で入店者数が減少したことにより、前年を下回った。

スーパーは、台風や気温が比較的低く推移したことによって夏物衣料等の季節商材が低調だったことに加え、食品の放射能汚染問題の影響もあり、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「今月は新車の販売量が目標の90%にとどまり、サービスの受注目標も達成できていない(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	▲1.7	▲1.8	▲1.5	▲2.2
百貨店(*1)	▲1.3	▲2.3	0.4	▲0.9
スーパー(*1)	▲2.0	▲1.4	▲2.7	▲3.1
大型小売店(*2)	▲1.3	▲1.1	0.4	▲0.2
(季節調整値)(*3)	(▲1.0)	(▲0.1)	(1.4)	(▲0.7)
乗用車(*4)	▲27.9	▲24.4	▲35.2	▲18.4
(季節調整値)(*4)	(▲32.3)	(5.1)	(▲16.6)	(34.9)

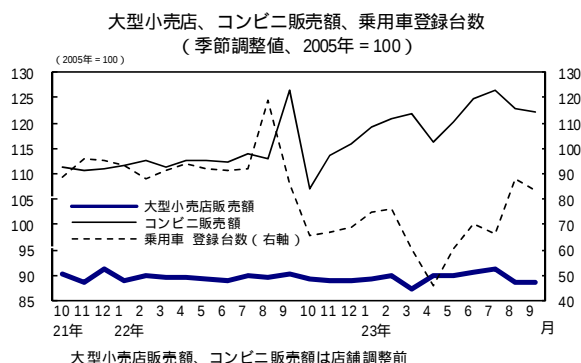
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

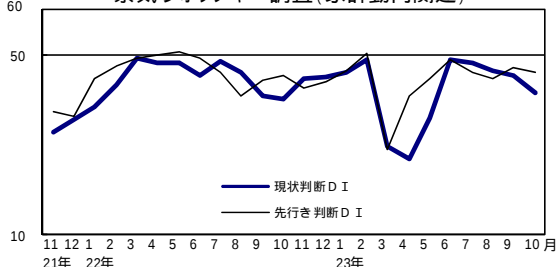
3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



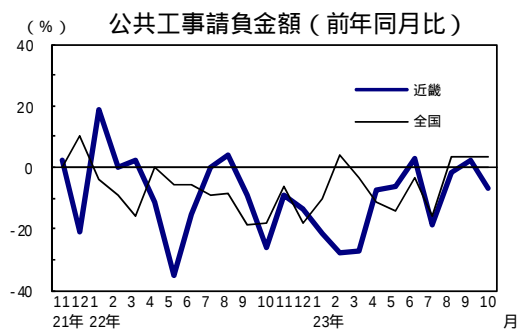
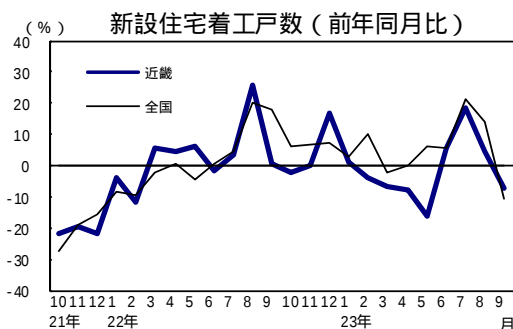
景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は増加している。

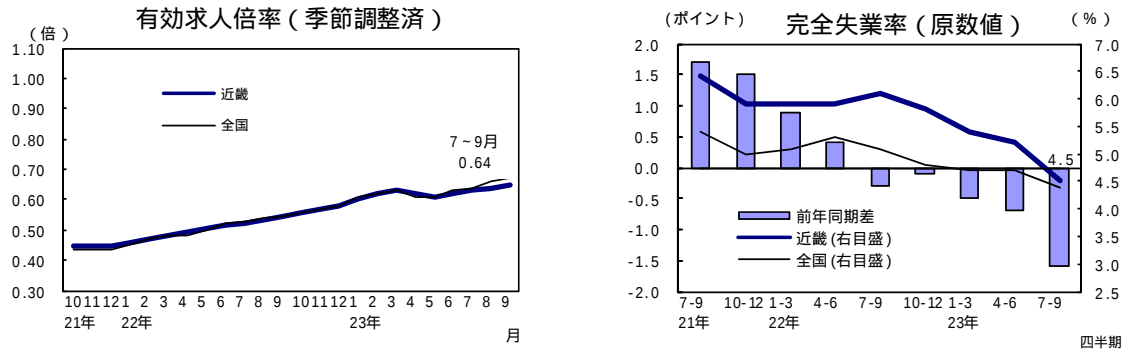
持家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は23年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

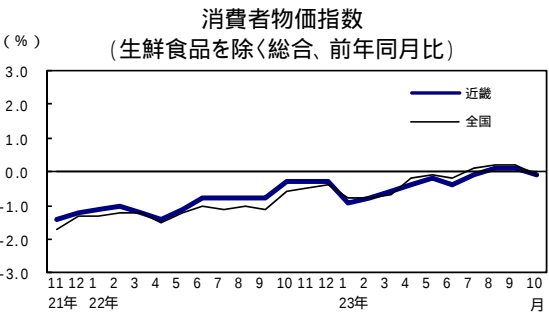


景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]
「公共工事のほか、建設資材も東北にシフトしている影響で、建設業を中心とした近畿圏の日雇求人数は前年比で1～2割減が続いている。ただし、日雇労働者数そのものが減っているため、求人倍率はむしろ高まっている (民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばいであり、負債総額は減少している。
(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月	23年10月
倒産件数 (前年比)	964 2.4	857 ▲9.3	902 ▲3.6	839 ▲2.6	288 ▲17.9
負債総額 (前年比)	4,179 ▲5.4	1,445 ▲28.5	1,027 ▲38.3	1,121 ▲18.4	299 ▲89.3



- 景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]
- <現状>
 - ・ここ数週間は週末の天気が崩れることが多く、それに伴い来客数も前年に比べて減っている (スーパー)
 - <先行き>
 - ・忘新年会のシーズンとなるが、客が激安店に流れる傾向も強まっているため、先行きは悪くなる (一般レストラン)

